

第 18 回日本認知症ケア学会大会 (沖縄)

2017 年 5 月 26 日～27 日

当院における認知症高齢者の弄便予防を目的とした腹巻付ズボンの試み

— 当院考案エプロン付きズボンからさらなる改良の結果 —

大阪 聖志会 渡辺病院

吉野栄子 奥ひとみ 友寄直美 松山美幸 太田三枝子

**【はじめに】** 認知症高齢者において、便を持ち歩いたり、口にいたりするなど弄便が見られることがある。便は感染源となり、特有の臭いを発するためその扱いに注意を要するだけでなく、介護者の精神的負担も多い。

**【目的】** 弄便予防と着用時の不快感が少なくなるように我々が考案した市販の腹巻と市販のズボンを一体化した衣服を着用してもらい、その後の経過を観察・分析した。

**【対象】** 介護服使用中の 5 名 (男性 2 名、女性 3 名)、平均年齢 79 歳 (68～92 歳)、主病名：アルツハイマー型認知症 4 名、前頭側頭型認知症 1 名、改訂長谷川式簡易知能評価スケール：平均値 0.6 (0～3)

**【方法】** 市販の腹巻と市販のトレーナーズボンを用意し、ミシンで周囲を縫い付け、腹巻付ズボンとした。1 ヶ月間、対象者に腹巻付ズボンを着用してその後の経過を観察した。

**【倫理的配慮】** 本研究に際して、施設管理者の承諾、家族の同意を得、個人が同定されないよう配慮し、倫理委員会の承認を得た。

**【結果】** A 氏：着衣後も静穏で、以前の弄便もなく順調に経過。B 氏：着衣後も静穏であり、以前のオムツ外しもなく順調に経過。C 氏：着衣を破損していたが、着衣後は弄便もなく順調に経過、D 氏：全裸になることが多かったが、着衣後は脱衣行為がなくなった。E 氏：密着した腹巻部分に発汗が増加、不快感が増悪し、脱衣行為が頻発したため、以前の介護服に戻らざるを得なかった。

**【考察】** 我々の考案した腹巻付ズボンは、介護服とほぼ同等の弄便予防の効果があり、着用者に不快感を与えることが少なく良好な結果をもたらした。1 名の方には、着用時に発汗が増加し、脱衣行為が増加し、弄便も継続して見られたため元の介護服に戻した。今後、吸汗性を加味した素材を使用してさらなる改良を加えた履き心地のよい弄便予防効果のある衣服を考案する必要があると思われた。